

## 第5次薬物乱用防止5か年戦略

今年の夏は、最高気温が40℃超を記録するなど、全国各地で例年のない猛暑が続いていましたが、お盆を過ぎて夏休みも終わりに近づき、ようやく厳しい暑さも緩み、比較的過ごしやすい日々となっています。熱戦が続く甲子園球場、第100回の記念大会となった全国高校野球選手権は、明日21日の決勝戦を残すのみとなりました。史上初の2度目の春夏連覇を目指す大阪桐蔭高校、初の決勝進出を果たした秋田の金足農業高校、どちらに女神は微笑むか、両校の戦いに注目が集まります。

さて、政府の「薬物乱用対策推進会議」（議長；厚生労働大臣）は8月3日、「第5次薬物乱用防止5か年戦略」を策定しました。

薬物乱用問題については、平成10年の第1次の薬物乱用防止5か年戦略を策定して以降、厚生労働省をはじめ関係各省庁が緊密に連携して、総合的な防止対策を講じてきたことから、平成29年度の覚醒剤事犯の検挙者数は約1万人と、平成9年の第3次覚醒剤乱用期のピーク時に比べ、半減しています。また、一時期大きな社会問題となった危険ドラッグは、平成26年に215店存在した販売店舗を全滅させるなど、その成果を上げてきています。

一方、覚醒剤事犯の検挙者数は、依然として1万人を超える数値で推移し、覚醒剤の押収量が1トンを超える等、覚醒剤の乱用対策は引き続き重要となっています。更に、大麻については、平成29年に過去最多となる3千人強が検挙され、その約半数が青少年となっており、青少年を中心とした乱用防止対策が重要性は一段と高くなっています。また、大麻ワックスや大麻リキッドなどの濃縮大麻が流入し、その乱用が懸念されますし、覚醒剤などの違法薬物の類似物質等、未規制物質の流入も懸念されます。

この他、医療用途で流通している睡眠導入剤等の向精神薬の悪用も問題となっています。今月の1日には、向精神薬を横流したとして、兵庫県内で薬局を経営する薬剤師が逮捕されたとの報道もなされています。

こうした状況を踏まえ、今般の5か年戦略では、密輸対策及び密売事犯対策を強化することに加え、未規制物質への対応と向精神薬の悪用防止を新たな対策として盛り込んでいます。

観光立国を目指した取組により、外国人旅行者が年々増加している状況にあり、更に来年のラグビーワールドカップ、再来年の東京オリンピック・パラリンピックの開催により、訪日外国人がより増加することが予想され、薬物乱用対策の一層の強化が必要と思われます。